

# 優秀賞



設計担当者

## ヨコミゾマコト

東京建築士会、aat+ヨコミゾマコト建築設計事務所

公共施設 | 新潟県新発田市中央町

# 新発田市新庁舎

構造 | 鉄筋コンクリート造+鉄骨造

階数 | 地上7階、地下1階、屋上1階

敷地面積 | 5,739.73㎡

建築面積 | 2,841.31㎡

延べ面積 | 12,995.69㎡

竣工 | 平成28年11月30日



## 選評

JR新発田駅の西方に位置する新発田市の中心街に新築された市庁舎である。「札の辻」と呼ばれる十字路に面したL字形敷地で、以前からさまざまな行事が開催されていた。新市庁舎は、周辺市街地との景観の連続性を保ちながら、これまでの行事を積雪のある冬季でも開催できるような場所を提供し、さらに日常的にも市民に開放された公共建築とすることが求められた。

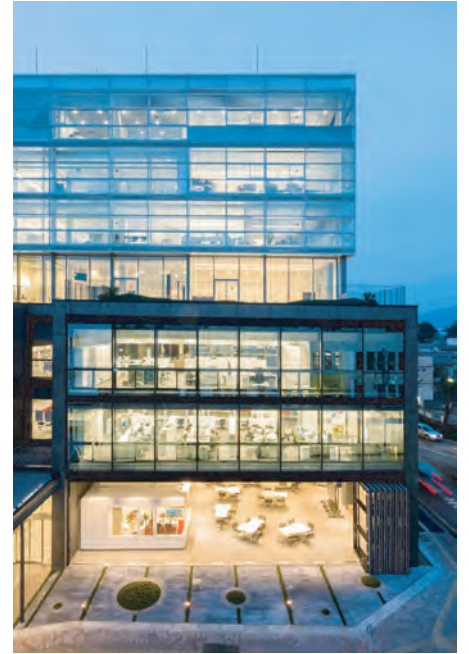
この難しい条件に対して、設計者は大きく3つのプログラムの提案によって応えている。第1は、3層分の高さの屋根に覆われた半屋外の「札の辻広場」と、それに連続する「札の辻ラウンジ」の提案である。「札の辻広場」は東側の道路と北側の駐車場に連続し、冬季には航空機格納庫で使われている大型シートシャッターによって室内化され、床暖房される。「札の辻ラウンジ」も大型可動引戸によって南北に開放される。第2は、市庁舎の機能を、地上階から3階の基壇部に窓口機能、4階に市民交流サロ

ンと議場、5、6階の高層部に執務空間を置くという3層構成にする提案である。これによって3階までの軒高を周辺の街並みに連続させ、4階に街を見晴らす屋上テラスを設けている。第3は、L型敷地に適応した構造方式と環境制御システムの提案である。地下階～3階をRC造、4～7階を吊り構造を組み込んだ鉄骨造によって無柱の執務空間を実現し、4階に免震層を設けて耐震性を高めている。外周壁はダブルスキンのガラスカーテンウォールによって季節の気候変化に対しフレキシブルに 대응、太陽熱と雨水利用、コジェネレーションシステム、天井輻射冷暖房を採用して、建物全体のエネルギー効率を上げている。

このように、市庁舎をいかに市民に開くかというテーマに正面から取り組み、雪国においても季節を問わず市民が広く利用できる市庁舎の新しいビルディングタイプを提案している点を高く評価したい。  
(難波和彦)



2



4



3



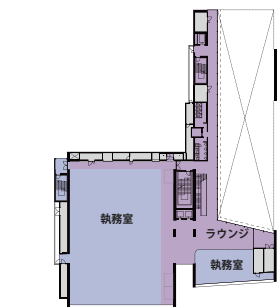
5



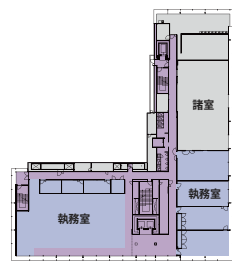
6



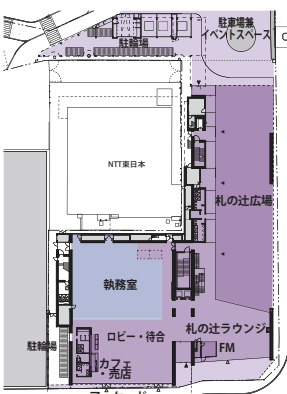
7



2・3階

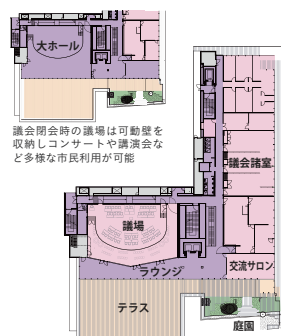


5階



1階

平面図



4階

- 1 札の辻交差点からみた全景。大型シートシャッターを下ろした状態
- 2 大型シートシャッターと大型可動建具を全開にした状態
- 3 札の辻広場の全景。大型シートシャッターを全開にした状態
- 4 札の辻ラウンジ夜景。大型可動建具開放状態
- 5 札の辻ラウンジ。左がアーケード商店街、右が札の辻広場
- 6 1階ロビー。家具基本設計は藤江和子アトリエ
- 7 飯豊連峰を望む4階テラス

写真1・7…吉原悠博、写真2〜6…新建築